

道風公園のカエル物語

道風公園の東側の空堀の前の大きな柳の下にカエルが設置されています。

このカエル何だか前よりやせたと思いませんか。

公園を管理している市の公園緑地課に聞いてみると、昨年の6月ごろ市民の人からカエルの右腕が折れているとのことで石材店に依頼し新しく作成して設置したそうです。

私は、急いでその石材店に以前のカエルがどうなったか問い合わせてみると、既に粉碎されているとの事でした。残念ですが致し方ないことでした。

私(昭和27年生まれ)より年上の方ならば、このカエルにまつわる物語を御存じだと思います。紹介させていただきます。



その当時の公園に設置された道風カエルと、その台座にきざまれた言葉

昭和29年に小野道風公誕生地が愛知県指定文化財史跡第1号に指定されました。

道風公誕生地の県史跡指定がされたことで、遺跡探求の人や学生団体など見学者が増えました。

そこで境内の狭さや不体裁さを整備する機運が高まり、道風誕生1060年祭の記念事業として公園造成、道風記念館(旧)建設など、公園や記念館を整備しようと、保存会が中心となって全国に趣意書で呼びかけ、住民総出の勤労奉仕や浄財をもとに、昭和30年当時春日井唯一の公園として道風公園が完成しました。

翌31年には市内の小中学生の寄付で普段の努力の大切さを教える「柳に跳びつく蛙」の説話にちなんだ「道風カエル」が設置されました。

蛙の像の台座には「たゆまぬ努力は成功のもと」と蛙の寓話にちなんだ言葉が書かれました。

道風公園は、市内の小学校や保育園の遠足の行き場としても人気となりました。



上の写真は、学校の遠足で道風公園へ来た子ども達、その写真の中に道風カエルが隠れています(下の写真)どこにいるかわかりますか？

ここから知る人は知る逸話となります。

設置されてから1年後、カエルの右腕が折れていました。

どうして折れたのかはわかりませんが、だれかがカエルの右腕にぶら下がって折れたと思われていました。

犯人探しをしている訳ではありませんが、だれが折ったかが町中の話題となりました。

そうしているところ、区長の所に男の子がやってきました。

「僕が折りました」と、その小学校低学年と思われる男の子は言いました

「カエルの腕にぶら下がり遊んでいたら折れてしまいました。」

区長は思いました。「この小さな子一人がぶら下がっただけで折れることはない。多くの子が一緒にぶら下がり遊んでいたのだろう。」

そう思った区長は、その男の子に「怪我はなかったか」といい、机にあったミカンをあげたそうです。

その後、カエルの腕は頑丈に補強されました。

区画整理で設置場所が今のところに移されましたが、その補修跡を残しながら今日までできました。

そのいきさつを知っている人達は、カエルの補修された右腕の跡を見るたび、誰とも分らない正直な男の子のこと、優しい区長のことを思い出しました。

カエルは、前より少し痩せて小さくなりましたが、道風カエルの台座には「たゆまぬ努力は成功のもと」と今も刻まれています。

※ 令和6年7月に2代目の道風カエルが設置される。下の台座は当時の物で「たゆまぬ努力は成功のもと」と刻まれているが、現在、土に埋もれて下部が見えづらくなっている。



補修された跡が残る右腕

令和元年11月3日の道風祭時に行ったクイズスタンプラリー時のカエル
まだ、取り換えられる前のカエルで補修された腕の跡がみえる。



2代目の道風カエル



2代目のカエルの前でスケッチする子ども達
令和7年4月22日、小野小学校2年生の社会見学

松河戸文化科学探求隊隊長 長谷川 浩